

優良賞 題名 弟の介護を通して

涌谷中学校一年 大川 茂道

僕には、弟がいます。弟は小さい頃に病気にかかり、話すことができなくなってしまいました。手足の自由もきかなくなり、車いすに乗ることになってしまったため、僕たち家族が介護することになりました。はじめは、めんどうだと思こともありましたが、毎日介護をするということが、当たり前のように思えてきました。そして、弟の介護が僕の日課となり、だんだん楽しくなっていました。

具体的な介護の内容というのは、移動する時に通路を作り車いすを押すことや、父が出張でいない時のお風呂の介助です。また、薬を整理しておき、発作が起きた時にヨーグルトに混ぜて飲ませる用意もあります。夜寝る時には、絵本を読んであげるといふ日もありました。

介護の中で大変だったことはたくさんありますが、その中でも車いすを動かすことには苦労しました。弟の乗っていた車いすは、とても車輪が大きく重いのです。さらにブレーキまでついているため、大きな石を引っ張りながら歩き回っているように感じていました。旅行に出かける時も、弟を車いすから降ろしてベランダまで運び、そこから案内に入るといふことがほとんどです。車に乗せるのも降ろすのも大仕事で父と母と僕の三人で力を合わせていました。そのような車いすを毎日押すというのは、本当に大変でした。

しかし大変な介護ではありませんでしたが、その中には、人の役に立てて嬉しいという気持ちもあります。自分ができることをして、人に喜ばれるというのは、本当に嬉しいものです。また、弟との思い出もたくさんできました。弟の付き添いで、リハビリの教室へ行ったことがあります。そこはとても広く、病室というよりも、リハビリ室と言った方が良かったかもしれません。とても快適な部屋で、弟と一緒に本を読んだりおもちゃで遊んだり楽しかったです。また、昔は弟と同じ部屋で寝ていたので、僕が弟に「アンパンマン」の本を読んであげたことも覚えています。その時弟はとても喜んでくれ、僕はそれ以上に嬉しかったです。改めて、人に何かしてあげることの嬉しさを感じました。

現代は、若者よりも高齢者が増えています。このままでは、高齢者を介護する若者が減ってしまうのです。僕は弟の介護を通して大変さを感じましたが、高齢者となればさらに大変だと思えます。しかし、現在様々なロボットが開発され、今後多くの場で活躍すると思います。ダンスをするロボットやサッカーをするロボット、車や自転車のような乗り物型のロボットなど、今も進化し続けています。もちろん、人を介護するロボットもいます。将来、「ドラえもん」や「鉄腕アトム」のように、人間とロボットが一緒に暮らせる世の中になると思っています。そうすれば、このまま若者が減っていても高齢者が困ることはないでしょう。

しかしながら、若者が増えて高齢者の介護ができる方が良いと思います。もちろん、高齢者のことだけでなく、僕の弟のように介護を必要とする人がいます。介護から多くのことを学びました。それと同時に人のために何かをすることで、自分自身も嬉しくなることがあります。一人暮らしで困っている高齢者や介護についての理解が進み、人と人が助け合って生活できる社会になってほしいです。